



エースもねらえ!

8月からの天候不順で、この夏の芝生も生育不順。はらっぱになりにきれいなまま、10月の運動会を迎えそうです。

園内では、今年度から「研究保育」というものを始めています。これは、順番に各クラスの保育活動を、職員間で見合いながら、その内容を振り返り、語り合っ

て深めていこうという取り組みです。またそれが、私たちの独りよがりにならないよう、外部講師も招くことで、客観的な視点も取り込むようにしています。先日、3〜5歳児保育を観察し、協議の場(カンファレンス)を持ちました。当日、子どもたち個々の言葉に丁寧に応じながら、活動全体を進めていく保育者の姿に、私は、十人の言葉を同時に聞きとったと言われる、あの聖徳太子のお姿を重ねながら、見入っていたのですが、その後のカンファレンスでもそのことが話題に上りました。

私たちは、相手の言葉を聞くことで、その考えや思いを知ることができるので、「どうだった?」「あの映画、どうだった?」さらには「昨日、どうだった?」といった乱暴なサービスに、どんなリターンを打ち返すのか。そこそこの短に、かといって「楽しかった」では済まされたい。ある種の緊迫感も漂います。自分は何に心動かされたのか。その感性自体が問われているからです。どうだった?。自分を棚に上げ、心を鬼にして、心で泣きながら。今日も職員たちに投げ掛ける。大好きな言葉です。

いじわる園長 折井誠司



すが、反対に、自分の行動の意味をいちいち周囲に説明するものでもないの、他人はその行動の意味を勝手に想像しているものです。

そして、相手が子どもともなると、安易にその行動の意味を決めつけるか、子どもだから意味もないのだろう、と片付ける傾向が強くなるようにも感じます。だからこそ私たちは、その子の本当の心情は何かを、慎重に洞察していく必要があるのですが、園内のある保育者が「子どもに問いかける」という実践を語ってくれました。

それは、「わからないのなら、本人に問うてみる」という、ある意味当たり前のことなのですが、これを意識的に実践してみると、こちらの想像を超えた答えが返ってくることに気づいたそうです。さらには、わかっているつもりのも、あえて問うてみると、実は違う思いを抱いて遊んでいたこともあったとか。子どもの思考を掴むための、簡単だけれど、大事な方法だと気づかされる話です。「まずは聞くこと」は大事なのですが、それにどう「返す」のかということ、

就学支援シートのご案内

秋から就学時健診も始まり、5歳児のご家庭では、就学に向けた準備が始まっています。そのひとつに、「就学支援シート」があります。これは、ご家庭の希望により、お子さんの家庭、保育園のようすを記入したシートを就学先へ提出し、事前に学校にお子さんのようすを知ってもらう事で、スムーズに学校生活をスタートさせようというものです。シートの提出時期は特に決められておらず、就学時健診時に限らず、その後も提出できます。シートは園にございますので、必要性も含めてご相談下さい。

これもまた重要で、さらに難しいことだなあと、つくづく思います。

子どもの言葉に、何をどう返すべきなのか。少し考えるから、夕方まで待つてね。」なんて言えない。一瞬で判断し、反射的に返していく行為。まさにこれは真剣勝負。的確で完璧な返しなんて、ポンポンと繰り出せるものじゃない。だから。何度だって振り返る。研究保育だつてする。学び続ける。私たち大人だつて。

保育者たちが書き込んだ様々な記録や書類は、立场上、私の手元を通っていきます。仕事とはいえ、それぞれが思いを込めたものならばこそ、私も何かコメントを返したくなります。保育の質が、応答の質というならば、私の仕事にだつて、この返しの質が問われていることをいつも感じます。

見方を変えれば、会話とはコメントの付け合い、その応酬。かつて、テレビでも見かける某教育学者の「コメント力」という本がヒットしましたが、パッと、何をどう返すのかにも力量が問われるということなのですね。

- 編集 誠美保育園
- 発行人 折井 誠司
- 印刷所 誠美保育園
- 発行所 社会福祉法人 誠美福祉会

〒119-0364 東京都八王子市南大沢5-1-2
電話 042-6975-1551
ファックス 042-677-5643
E-mail sebi@nokken.jp
http://nokken.jp/